

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成24年11月29日(2012.11.29)

【公開番号】特開2011-127095(P2011-127095A)

【公開日】平成23年6月30日(2011.6.30)

【年通号数】公開・登録公報2011-026

【出願番号】特願2010-249582(P2010-249582)

【国際特許分類】

C 0 8 L 35/00 (2006.01)

C 0 8 K 5/25 (2006.01)

C 0 8 J 5/04 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 35/00

C 0 8 K 5/25

C 0 8 J 5/04 C E R

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年10月12日(2012.10.12)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(コ) ポリマーと、架橋剤と、リン含有化合物とを含む硬化性水性組成物であって；

前記 (コ) ポリマーが、組成物の乾燥重量を基準にして 0.05～10 重量%の、少なくとも 2 つのカルボン酸基を有するエチレン性不飽和モノマーを (共) 重合単位として含み；

前記架橋剤が少なくとも 2 つのヒドラジノ基を有し；

組成物中のカルボン酸基に対する、架橋剤中のヒドラジノ基のモル比が少なくとも 0.05 であり；

前記リン含有化合物が、ジ亜リン酸アルカリ金属塩、亜リン酸アルカリ金属、リン酸二水素アルカリ金属、ポリリン酸、およびアルキルホスフィン酸からなる群から選択され；
並びに

組成物が 100℃～250℃の温度で硬化可能である；
硬化性水性組成物。

【請求項 2】

モノマーがジカルボン酸である、請求項 1 に記載の硬化性水性組成物。

【請求項 3】

ジカルボン酸が、イタコン酸、フマル酸、およびマレイン酸、これらの塩、並びにこれらの混合物からなる群から選択される、請求項 2 に記載の硬化性水性組成物。

【請求項 4】

架橋剤が、少なくとも 2 つのヒドラジド基を有するヒドラジド誘導体である、請求項 1 に記載の硬化性水性組成物。

【請求項 5】

組成物が、100℃～200℃の温度で、架橋剤のヒドラジノ基を用いて、モノマーのカルボン酸基において硬化可能である、請求項 1 に記載の硬化性水性組成物。

【請求項 6】

組成物中のカルボン酸基に対する、架橋剤中のヒドラジノ基のモル比が0.05～2である、請求項1に記載の硬化性水性組成物。

【請求項7】

1) (コ) ポリマーと、架橋剤と、リン含有化合物とを含む硬化性水性組成物を形成する工程であって；

前記(コ)ポリマーが、組成物の乾燥重量を基準にして0.05～10重量%の、少なくとも2つのカルボン酸基を有するエチレン性不飽和酸モノマーを(共)重合単位として含み；

前記架橋剤が少なくとも2つのヒドラジノ基を有し；

組成物中のカルボン酸基に対する、架橋剤中のヒドラジノ基のモル比が少なくとも0.05であり；

前記リン含有化合物が、ジ亜リン酸アルカリ金属塩、亜リン酸アルカリ金属、リン酸二水素アルカリ金属、ポリリン酸、およびアルキルホスフィン酸からなる群から選択される工程；

2) 可とう性基体を前記組成物と接触させる工程；並びに

3) 前記組成物を100℃～250℃の温度で加熱して、前記組成物を硬化させる工程；

を含む処理された基体を形成する方法。

【請求項8】

前記可とう性基体が織物もしくは不織布である請求項7に記載の方法。

【請求項9】

請求項7の方法によって形成された基体。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0022

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0022】

ある実施形態においては、硬化性水性組成物はリン含有物質を含み、このリン含有物質は、リン含有化合物、例えば、ジ亜リン酸アルカリ金属塩、亜リン酸アルカリ金属、ポリリン酸アルカリ金属、リン酸二水素アルカリ金属、ポリリン酸、およびアルキルホスフィン酸などであることができ、またはリン含有物質は、リン含有基を有するオリゴマーもしくはポリマー、例えば、ジ亜リン酸ナトリウムの存在下で形成されるアクリルおよび／またはマレイン酸の付加ポリマーなど、付加ポリマー、例えば、亜リン酸塩連鎖移動剤またはターミネーターの存在下でエチレン性不飽和モノマーから製造されるポリマーなど、並びに酸官能性モノマー残基を含む付加ポリマー、例えば、共重合されたメタクリル酸ホスホエチルおよび同様のホスホン酸エステル、および共重合されたビニルスルホン酸モノマーおよびこれらの塩などであることができる。ある実施形態においては、リン含有物質は、本発明のポリマーの乾燥重量を基準にして、0重量%～40重量%、好ましくは0重量%～5重量%、さらに好ましくは0重量%～2.5重量%、より好ましくは0重量%～1重量%の濃度で使用される。